



グローバル・フォーラム会報

THE GLOBAL FORUM OF JAPAN BULLETIN

「インド太平洋戦略」をめぐり英仏独で温度差



米中間の覇権競争の激化とコロナ禍による対中認識の悪化を背景とした欧州における戦略的变化として、インド太平洋地域への関心の高まりがある。欧州各国が「インド太平洋戦略」を次々と打ち出し、戦略的要地として位置づける中で、日本は欧州各国との新たな協力関係の構築が急務といえる。

このような問題意識に基づき、当フォーラムの「欧州政策パネル」は、5月28日に、国際セミナー「英仏独のインド太平洋戦略の真意と日本の対応」(オンライン形式)を緊急開催した(写真)。

当日は、渡辺まゆ世話人、渡邊啓貴世話人、中村登志哉名古屋大学教授、

秋元千明英国王立防衛安全保障研究所(RUSI)日本特別代表、アレクサンドラ・サカキ独国際安全保障問題研究所(SWP)研究副部長などの欧州専門家が集まり、活発な議論を交わした。

特に注目された発言のみ次の通り。

●**渡邊啓貴**：本年5月、日本の陸上自衛隊と米海兵隊及び仏陸軍が日本国内で初の共同訓練を実施した。中国はこれをアジア版NATOとして強く非難したが、これは、フランスにとってインド太平洋戦略の一環といえよう。

●**中村登志哉**：ドイツ国内の世論調査で、「米中冷戦が起きた場合、ドイツの対応はどうあるべきか」という問い

に対して、国民の82%が「中立」を選択した。他方、「インド太平洋地域における重要なパートナー国は」という問いには、日本が第一位(44%)で、中国が第二位(38%)に続いた。ドイツにおける中国の存在は大きいと言わざるを得ない。

●**秋元千明**：英国海軍の空母クイーンエリザベスが初の実戦任務のためインド太平洋に展開しているが、その長期的ビジョンとしては、NATOや日米同盟といった既存の同盟に加えて、同地域に新たな秩序を形成し、将来は米英同盟と日英同盟を融合させ、実質的な三国同盟への道を開くことにある。

●**アレクサンドラ・サカキ**：欧州がインド太平洋へシフトしているという分析があるが、個人的には、欧州における外交の最大の焦点は未だ、ロシアや中東、アフリカといった隣接地域にある。ただし、現在進行中の課題として対中政策の厳格化があるが、今後、インド太平洋戦略とどう折り合いをつけていくかが課題といえよう。

欧州の「戦略的自立」に迫る

今、欧州連合(EU)では、感染力の強い新型コロナウイルスの変異種の広がりを受け、欧州各国では外出規制の延長や強化を強いられるなど、厳しい状況が続いている。今、EUでは製薬から軍事まで多様な分野で自立するべく「戦略的自立」という考え方が定着しつつあるが、その実現に向けた課題は多い。

このような問題意識に基づき、当フォーラムは、3月5日、第5回「欧州政策パネル」—英国のEU離脱と欧州の行方：「戦略的自立」に向けて—

を開催した(写真)。

当日は、特別ゲストに**兒玉和夫・前欧州連合日本政府代表部大使**をお迎えし、渡邊啓貴世話人、伊藤さゆりニッセイ基礎研究所研究理事、伊藤武有識者メンバー等を含む総勢150名を超え



る参加者と活発な議論を交わした。

兒玉前大使より「EUにとって、『戦略的自立』が試された最初の試金石が、2013年～15年のウクライナ危機対応だ。EUはこの危機を通じて、いわゆる『地政学』に目覚めるとともに、米ロ代理戦争に発展しかねないリスクを避けるようになった。EUは米国との間で価値をめぐる争いはないが、対ウクライナ政策において、政治的利害が米国と合致しなければ、そこにEUの『戦略的自立』が存在する」との報告がなされた。

議論百出から

グローバル・フォーラムのホームページ (<http://www.gfj.jp>) 上のe-論壇「議論百出」への最近3ヶ月間の投稿論文を代表して、下記論文を紹介する。

サイバークレートゲームのハートランド

慶応義塾大学教授 土屋 大洋

20世紀初頭、中央アジアを巡って帝政ロシアと大英帝国の間で争われたインテリジェンス合戦を「グレートゲーム」と呼んだが、21世紀のグレートゲームは、「サイバー攻撃」になる。サイバー攻撃の発信源として近年名指しされるのが、中国、ロシア、北朝鮮、イランといった、いずれもユーラシア中心部ないしリムランドに位置する国々だ。

インターネットは時に雲(クラウド)に例えられるが、その実態は、情報通信機器、情報通信チャンネル、そして記憶装置(サーバー等)が繋がった物理的な存在だ。それ故に、サイバースペースは、いわゆるハッキングや不正侵入だけでなく、ハードウェアの破壊によっても損害を被る脆弱なものである。

このサイバークレートゲームにおけるハートランドは、ずばり、デジタル化されたデータと我々が情報を認識、解釈

し、そして発信する際の認知スペースといえよう。サイバースペースは物理的な存在でありながら、それによって操作され得るのは我々の富であり、思考である。ここが20世紀のグレートゲームと21世紀のグレートゲームの大きな違いだ。

では21世紀のグレートゲームの時代に何ができるだろうか。サイバー攻撃の発信源がユーラシアに位置する国々であり、サイバースペースが物理的な機器・設備によって構成されているとするなら、もう一度ユーラシアを封じ込める戦略があり得るかもしれない。あるいは、いわゆる「クアッド」と呼ばれる日米豪印の4カ国の連携に英国を加えた、JAIBU(Japan-Australia-India-Britain-US)とも呼べるような新しいサイバーアライアンスを形成し、ユーラシアの国々と対抗することはできないだろうか。(2021年5月6日付投稿)

最近3ヶ月間で注目されたその他の論文

- | | |
|---|--------------------------------------|
| 6/5 「国産ワクチンの製造を急げ」
(船田元) | 4/1 「米中覇権競争に食い込むロシア：マスク外交を事例に」(廣瀬陽子) |
| 5/28 「ユーラシアダイナミズムと米国外交—鉱物資源サプライチェーンをめぐる考」(杉田弘毅) | 3/23 「アフターコロナとゾンビ企業」(大井幸子) |

グローバル・フォーラム活動日誌 (3-5月)

- | | |
|--|--|
| 3月1日、5月1日 『メルマガ・グローバル・フォーラム』(通巻第99号、第100号) 発行 | 4月1日 『GFJ-E-Letter』(通巻第85号) 発行 |
| 3月5日 第5回「欧州政策パネル」英国のEU離脱と欧州の行方(兒玉和夫氏他149名、オンライン) | 5月28日 国際セミナー「欧州政策パネル」：英仏独のインド太平洋戦略の真意と日本の対応(渡邊啓貴氏他55名、オンライン) |
| 3月10日 第333回国際政経懇話会(岡本隆司氏他31名、オンライン) | 5月31日 第336回国際政経懇話会(廣瀬陽子氏他57名、オンライン) |

ハイブリッド戦争

第336回国際政経懇話会は、5月31日に廣瀬陽子慶応義塾大学教授(写真)を講師に迎え、標題のテーマについて、次のような講話を聴いた。



昨今のハイブリッド戦争は多岐にわたる中、日本としてハイブリッド戦争にどう対抗すべきか。ずばり、優秀な人材の確保と教育拡充、また専守防衛ではなくホワイトハッカー等を通じて「攻撃しながら防衛する」姿勢を強化し、国民全体の意識強化が急務であろう。また、日米同盟をもとに米国に頼り切りになるのではなく、日本側からも多面的かつ積極的に関与していく必要がある。

東アジアの論理とは

第333回国際政経懇話会は、3月10日に岡本隆司京都府立大学教授を講師に迎え、標題のテーマについて、次のような講話を聴いた。

日本を取り巻く東アジアには各種緊張関係があるが、これら背景を理解するには、歴史的アプローチが有効だ。中国や朝鮮が持つ東アジア観と、日本や西洋の論理は、日清戦争前から問題であった。福沢諭吉も陸奥宗光も、中国大陸・朝鮮半島の儒教主義的性質を指摘し、中華を中心に据える世界観に對抗するのは、西洋文明だと指摘した。日本ではこうした西洋的論理を漢語に翻訳して吸収し、近代化を図った。その漢語が伝わった朝鮮半島や中国大陸も、これら論理の一部を受け入れて今に至るが、依然として儒教主義的世界観・論理もまた生きている。そのため大陸・半島が日本と全く同じ立場をとることは難しいといえよう。



グローバル・フォーラム会報
2021年7月1日号(通巻第87号)

発行日 2021年7月1日
発行人 渡辺まゆ
編集人 高畑洋平

発行所 グローバル・フォーラム
〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-12-1301
[Tel] 03-3584-2193 [E-mail] gfj@gfj.jp
[Fax] 03-3505-4406 [URL] http://www.gfj.jp/